



忙しくても
読んでね!

とやまケンキョーソ特命

多忙解消

セキュリティーポリス

No. 15



30年に一度のチャンスを逃さない!



まずは、右の4コママンガを見てください。

いろんな「荷物」を任されたマモルの見えないところに
キケンが待ち受けています。

このまの学校でいいですか?



文部科学省からも教育委員会からも様々なとりくみ

を任せ、地域や保護者の要求にも応えようとがんばり
続けてきた結果、多大な仕事を抱えてしまい、過労死
ラインを超える長時間労働が生じています。

この長時間労働が引き起こしている問題は・・・

- ・ 早期退職の増加 (約半分が定年前に退職します)
- ・ 病休者の増加
- ・ 過労死する教職員もいる
- ・ 教職員を志す人が減る



つまり「人材不足」がすすみつつあるのです!

そうすると「教員のさらなる負担増加」が生じます!

当然「サービスの低下」「教育力の低下」も生じます!

その結果「保護者・地域からの
批判」が起こると、それがまた「人
材不足」を招き、負の連鎖に陥る
かもしれません。

どうすれば いいのでしょうか?

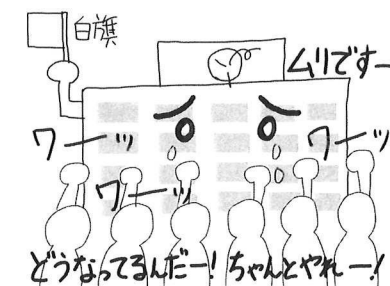


サービスが低下する前に役割を行政や保護者、地域に
お返しすることです。でも、そんなことができるの
でしょうか?

実はこの学校のピンチを学校
以上に問題視して、解決策を議
論している機関があります。

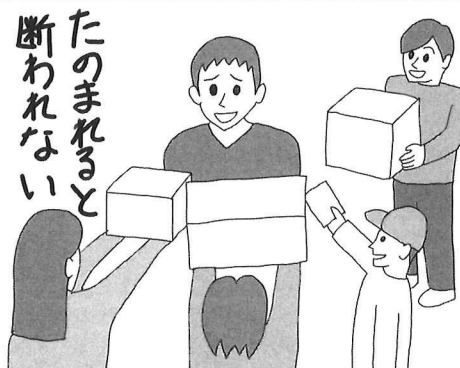
中央教育審議会

「学校における働き方改革部会」です!



多忙反対! 家庭第一のイクメン教師 つるぎ 剣マモルが行く!

地域の好青年ピンチ! の巻



目指すは「持続可能な学校」



中教審から12月22日に発出された「中間まとめ」では、「登下校の対応」「学校徴収金の徴収・管理」「部活動」「校内清掃」など12の項目について学校の負担軽減策が示されました。今まで県教組が交渉の中で言っても言っても前進しなかったことが、文部科学省の方から「削減しなさい」と言っているのですから「宝の山」が降りてきたようなものです！

ただ、喜んでばかりはいられません。これらが「実施されるかどうか」「どれを優先して行うか」は行政の判断になるからです。



例えば、「登下校の見守りは学校ではなくて自治体の責任」だと示されました。それでは小・中学校で「朝の見守りはやめましょう」「集団登校の班づくりも市町村におまかせしましょう」「自転車通学の判断も市町村にやってもらいましょう」となるのでしょうか？

学校内部でも意見が分かれることでしょう。

「市町村にやってもらいましょう」

「いや、市町村には無理だ」

「子どもたちの安全のためにも学校がやるべきだ」

学校が「登下校の見守り」という役割を行政に手渡せば、行政は地域や保護者に役割分担をし、そのための予算もつきます。



そのままにしていると「学校がやってくれるんだ」と

判断されて、先延ばしになるか、ずっとこのままで予算もつきません。

目先の「子どものため」は、未来の子どものためになりません！



登下校の見守りだけではありません。「ワックスがけ」「給食費の集金・督促・会計・返金」

「部活動」等、様々な業務が見直しの対象になっていきます。今、負担削減を求めていかなないと学校は過重労働のまま。人手不足で一番不利益をこうむるのは子どもたちです！

今、この改革を後押しできるのは、県教組だけです！



県教組は県教委に対し中央教育審議会の施策の推進を求めます！

地区教組は市町村教委に、特別支援学校支部は県教委に具体的改善を求めましょう！

各分会では学校でできる改善をすすめてみましょう！管理職にも削減を提案しましょう！

今後、春闘を皮切りにこの改革をすすめていきます！ご協力をお願いします！

このチャンスを絶対に逃してはいけません！

多忙解消SPメンバー紹介「平昌オリンピックのここが楽しみ！」



委員長
佐幸 明
競技直後の選手の表情



書記長
能澤 英樹
日本モーグル勢の活躍



高岡支部担当執行委員
角谷 壮績
TBS 石井アナの熱血現地レポート



魚津支部担当執行委員
大上戸 剛司
富山県関係選手4人のパフォーマンス



富山支部担当執行委員
松本 智子
何といってもスピードスケート！



砺波支部担当執行委員
湯浅 慎治
開閉会式と国際関係



特別支援担当執行委員
杉本 一美
フィギュアの羽生、宮原、宇野選手